

# 地域ぐるみで 防災力アップ



《当日行った訓練の様子》  
冠水歩行  
土のう積体験  
ロープワーク体験  
簡易DIG  
倒壊家屋救助救出  
応急担架作成・運搬  
心肺蘇生(AED等)  
訓練用消火器を使った消火  
煙体験  
災害伝言ダイヤル体験  
DIG...地図上で災害対応を考  
えるトレーニングのこと。

ここ数年、これまでに経験したことがない大雨により、全国各地で甚大な被害が発生しています。9月11日、北海道では初めてとなる大雨特別警報が発表されたことを受け、市内全域に避難勧告を発令しました。幸いにも市内では浸水などの被害はありませんでしたが、札幌市などでは大きな被害となりました。まさに災害はいつ、どこで起こるか分からない、ということを感じました。

今月号は先日行った防災訓練を通して、日ごろからの災害への備えや、災害発生時に被災を少なくするかを市民の皆さんと一緒に考えます。

## 体験型の防災訓練

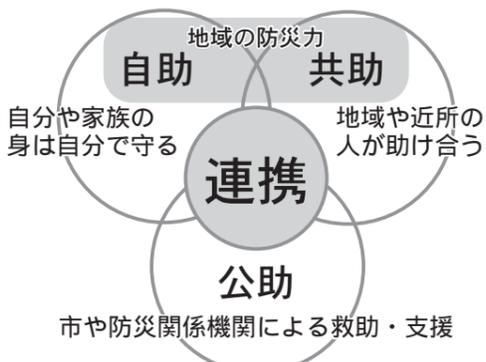
8月30日(土)、市民参加による防災訓練を美園小学校で実施しました。今回の訓練は、河川(利根別川)の水位上昇により、氾濫の恐れがあるという想定で行い、美園地区町会連絡協議会と駒園地区町会連絡協議会の皆さん約300人が参加しました。



午前8時の防災ファックスや市メールサービス、緊急告知FMラジオ、広報車などによる情報伝達訓練から始まり、避難訓練を行った後、参加者が10種類の防災訓練を体験しました。

実際に各訓練を体験した方に話を聞くと、話しを聞くだけや、見るだけでなく実際にやってみないと、災害時にいかせないと思う「テレビでAEDを見て、一度、やってみたいと思っていた。怖いかなと思うけど、やって良かった」という意見を多くいただきました。

## 被害軽減のため



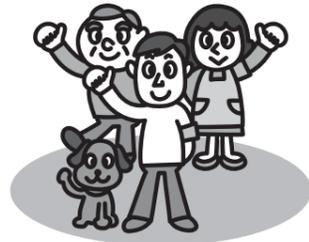
【自助・共助・公助の役割分担】

防災訓練を通して、分かったことは、現場を体験することにより、災害に対する心構えをすることが出来て、参加した方々の多くに、いざというときに、慌てずに行動する余裕が生まれるということです。

災害はいつどこで起こるか分かりません。大地震や豪雨、豪雪などの自然災害は、人間の力でくい止めることは出来ませんが、これらによる被害は、私たち一人ひとりの努力によって減らすことが出来ます。では、災害が起こったときに、どのような行動をしたら良いでしょうか。災害時は行政などによる公助があ

# 町会(自治会)に加入しましょう

町会(自治会)は、私たちが暮らしていくために欠かせない、生活の支えになる大切な組織です。町会(自治会)に加入して、一緒に安全で快適に暮らせるまちにしましょう。



町会(自治会)の加入は、近隣の方に役員を尋ねて、加入の申し出をしてください。なお、役員がわからない場合はお問い合わせください。

## 町会(自治会)はこんな活動をしています

### 皆さんの声の聴き、行政や関係諸団体と連携

地域を良くするために、地域としての意見や要望を取りまとめ、行政や各種団体への要望などを行っています。また、地域の行事や市からのお知らせなどの生活に身近な情報を、回覧板などで提供しています。

### ふれあいの場づくり

お祭りやスポーツなどの地域の皆さんの交流を通して、会員同士の顔が見える関係を作り上げています。

### 安全・安心なまちづくり

交通安全運動や防犯パトロール、防災訓練などの実施や、夜道を照らす街路灯(防犯灯)の設置や管理をしています。

### 快適で住みやすいまちづくり

ごみステーションやリサイクルステーションの設置や管理をしています。また、資源ごみの回収や公園の草刈り、清掃や、花壇の花植えを行い、快適で住みやすいまちづくりを進めています。

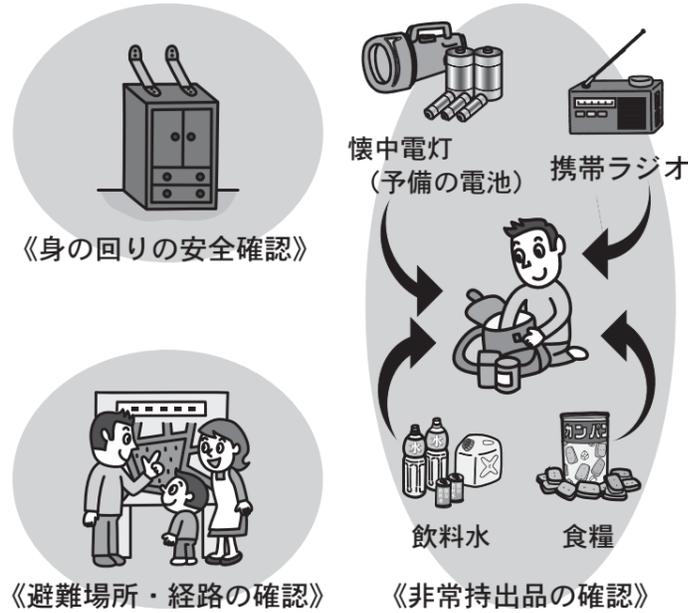
### 『いざ』という時に困らないために

大規模災害が発生したとき、一人では対応できません。いざという時に助け合えるよう、日ごろから地域での交流活動や訓練を行い、隣近所とつながりを持つことが大切です。町会(自治会)を通じて、日ごろから顔見知りになっておくことが、災害などから身を守るためにも、とても重要です。



問合せ先 市民連携室

## 『いざ』という時に困らないために、普段から確認を



### 自助と共助の備え

大規模災害時には、同時にいくつもの箇所が被災し、「公助」である市

るのはいつまでもありませんが、自助・共助・公助が円滑に連携することにより、災害による被害を軽減出来ます。そのためにも、自助と共助の備えをしており、地域の防災力を高めることが大切です。

### 自助の備え

災害が発生したときに、被害をできるだけ少なくするためには、自分や家族の身は自分で守る、自助が防

や消防、警察などがすぐに救援に駆けつけることは困難です。自分や家族の身は自分で守るといふ気持ち、そして地域の人々が助け合い協力し合う気持ちが災害に強いまちづくりにつながります。

### 共助の備え

初期消火や被災者の救出・救護などで大きな力となるのは、地域の人同士で助け合う「共助」です。

市民の皆さんは、災害が起こったとき、周りの人と助け合うことが出来ますか。

挨拶やお年寄りへの声かけなど、日ごろの近所づきあいが、いざというときに力を発揮します。普段から、次のようなことを確認しておきましょう。

- 「自助」が出来ること
- まずは自分や家族の防災対策がきちんと出来ていることが大切です。
- 地域のことを知っておくこと
- ハザードマップなどを使って、地域の危険箇所や避難場所を確認しておきましょう。
- 色々な場合を想定して、どのように行動するか考えておくことが必要です。

- 助け合いの雰囲気づくりを
- 災害時は、皆さんが被災者となり、不安や悲観的な気持ちになります。
- お互いを知ったり、理解したりすることで、助け合いの雰囲気を作っておくことが大切です。
- 地域全体で災害に備える

町会(自治会)や自主防災組織などで、自主的に防災活動を行い、災害時に必要な防災知識を身につけておきましょう。

このようなことを準備しておき、災害時には、自分や家族の安全が確保できたら、出来るだけ「共助」に参加しましょう。

市は、市民の皆さんが色々な経験を積み重ね、災害のときにいかしてもらえるよう、今後も体験型訓練を取り入れた市民参加の防災訓練や出前講座などを通じて、地域の防災力の向上に取り組んでいきます。

市民の皆さんも、災害が起こったときに、どのように命を守り、どのように行動するか、家族や地域の方々と一緒に、具体的に考えておきましょう。

問合せ先 市防災対策室